

災害アーカイブ資料間のリンキングを指向した地名変遷記述
のためのメタデータモデルに関する研究

A Study on a Metadata Model to trace Changes of Place-names
over time for linking Resources across Disaster Archives

学籍番号：201621649

氏名：冉 穎

Ying RAN

東日本大震災以降、被災者をはじめとして記憶への収集・保存という意識が高まり、自治体だけではなく、さまざまな団体が震災デジタルアーカイブの構築が行われてきた。震災アーカイブに収録された資料は主に災害後のものであるが、被災者から昔の思い出を回想したいという要求にこたえたり、また過去から未来への繋がりを示すことにより新たな知見を得る手助けをしたりするには、地名を介して災害前の町並みの風景や、災害後のあとの復興に伴う地域の変化の記録といった様々なコンテンツを集め、それらを統合的に提供することが重要であると考えられる。しかし、災害アーカイブに膨大なコンテンツを収集し、それらの情報を効率的にアクセスできるようにメタデータの整備が進んではいないものの、地名は長い時間の経過とともに変化するものであり、現存のメタデータ環境では、過去の資料と現在の資料を横断的に検索したり、地名の変遷に対応する資料間のリンキングをしたりする機能はまだ整っていない。

このような問題に対し、本研究では、Linked Dataの視点から災害アーカイブ間のリンキングのために利用することができる、地名変遷を表現するためのメタデータモデルを開発した。データモデルでは、日本の過去から現在に至る行政区分の変遷を考慮し、地理的実体を構造化することで過去の地名に対応している。また、地理的実体に変化を起こすイベントを実体として記述することにより、過去の地名と現在の地名をイベントを介して結びつけた。なお、本研究では、筑波大学・村山祐司研究室が公開している行政界変遷データベース等を基礎としてメタデータモデルを設計した。本研究では、設計したデータモデルを、過去に津波による大きな災害を何度も経験している東北地方の地名に適用して、災害アーカイブにおける地名変遷記述のためのデータモデルの有効性について検討した。

研究指導教員：杉本 重雄

副研究指導教員：永森 光晴